

経営比較分析表（令和5年度決算）

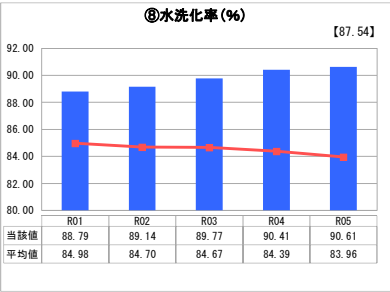
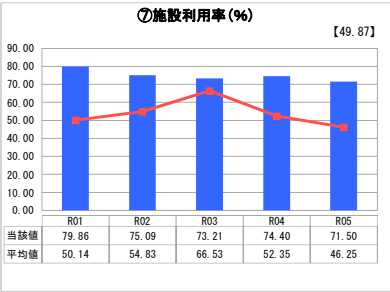
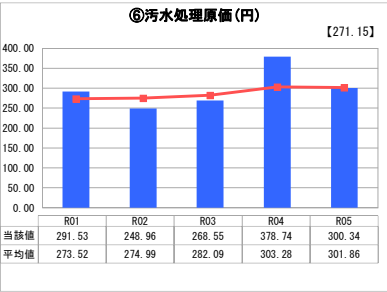
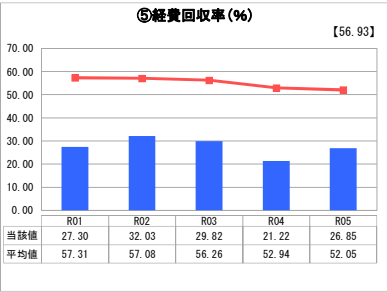
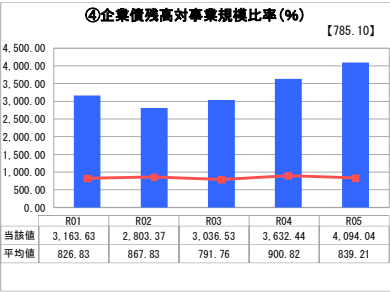
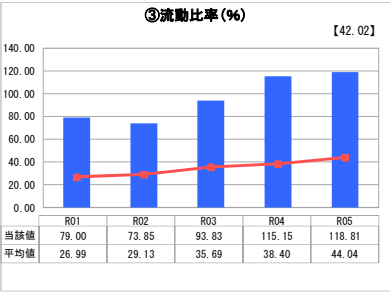
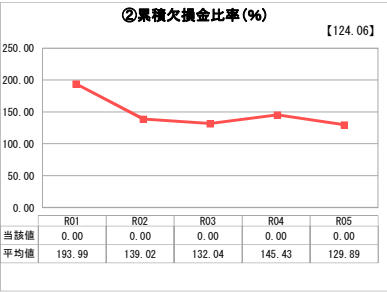
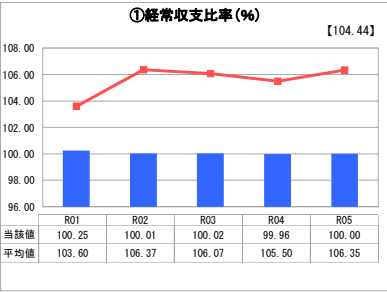
愛知県 小牧市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	72.73	0.79	74.44	1,581

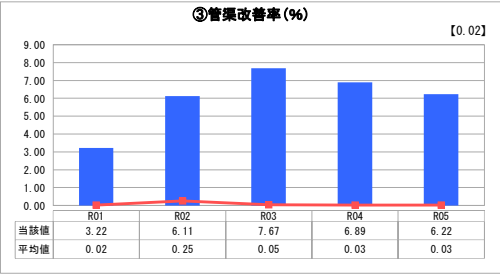
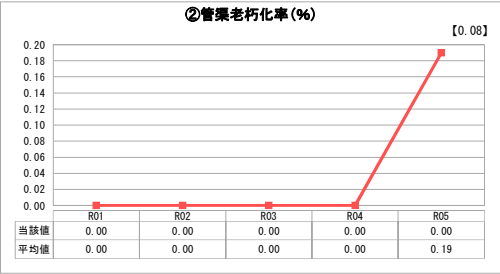
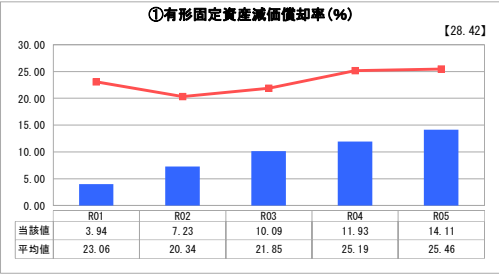
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
149,715	62.81	2,383.62
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,182	0.70	1,688.57

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値） — 類似団体平均値（平均値） 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%前後の数値で推移しているが、⑤経費回収率は類似団体平均値を下回っている。これらは、本市が一般会計より基準外繰入金を受けていることが主な要因である。

④企業債残高対事業規模比率は令和4年度に比べて上昇している。これは令和3年度から企業債の借入を再開しており、企業債残高が増加したことが主な要因である。類似団体平均値を上回っているのは、処理区域内人口に対して投資額が多いためである。

⑥汚水処理原価は、令和4年度に比べて下降している。これは、令和4年度に実施した管路調査を実施しなかったことが主な要因である。

⑧水洗化率は類似団体平均値を上回っているが、処理区域内の住民の高齢化が進んでいることから、更なる上昇は難しい状況である。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は令和4年度に比べて上昇している。これは管渠など資産の減価償却が進んだことが主な要因である。

②管渠老朽化率は0%であるのは、事業着手後の経過年数が少なく、耐用年数50年を経過した管渠がないためである。

③管渠改善率は類似団体平均値を上回っている。これは主要管渠である陶管の損傷が激しい箇所において、道路陥没等のリスク低減や不排水対策として管更生工事を実施していることが主な要因である。

全体総括

⑤経費回収率が低く、経費の削減や収益の向上のための取り組みが求められている。

将来の人口減少による有収水量の減少や老朽化した施設の更新費用の増大に対応するため、下水道使用料改定に向けた検討を進めることにより、経営の健全化を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。